

# 杉並区 みどりの 基本計画

(素案)

令和6年3月 作成状況

※未定稿のため本文や図表、グラフは  
精査の上修正する場合があります。

令和6年(2024年)11月

杉並区みどりの基本計画改定にあたってのあいさつ文  
(杉並区長名)

# 目次

## 序章 はじめに

- 1 みどりの定義 .....
- 2 自分には関係ない？ ～こんな場面ありませんか～ .....
- 3 みどりは必要？ ～みどりの価値とは～ .....

## 第1章 計画の基本的な考え方

- 1 背景 .....
- 2 みどりの基本計画とは .....
- 3 改定の視点 .....
- 4 対象区域 .....
- 5 計画の構成 .....

## 第2章 みどりの将来像と基本方針

- 1 みどりの将来像 .....
- 2 基本方針 .....

## 第3章 計画の目標

- 1 計画目標一覧 .....
- 2 目標1（みどりに覆われた杉並） .....
- 3 目標2（魅力的な公園がすぐ近くにある） .....
- 4 目標3（いろいろな生き物に出会える） .....
- 5 目標4（みどりでいっぱい景色） .....
- 6 目標5（みどりが生活の中にある） .....
- 7 目標6（区民満足度） .....

## 第4章 取組

- 1 基本方針と取組一覧 .....
- 2 取組の内容（基本方針1 みどりがあるあたり前を変えよう） .....
- 3 取組の内容（基本方針2 みどりでつながるまちに変えよう） .....
- 4 取組の内容（基本方針3 みどりのある未来にいま変えよう） .....

## 第5章 方針図

- 1 みどりの方針図とは .....
- 2 みどりと水のまちづくり方針図 .....

3	公園等の整備現況図	.....
4	エコロジカルネットワーク現況図	.....
5	農地の現況図	.....
6	杉並らしいみどりの保全地区	.....
7	災害に関する現況図	.....
8	みどりの方針図	.....
9	地域別方針図	.....

## 第6章 実現に向けて

1	取り組みの体制	.....
2	進行管理	.....
3	財源の確保	.....

## 資料編

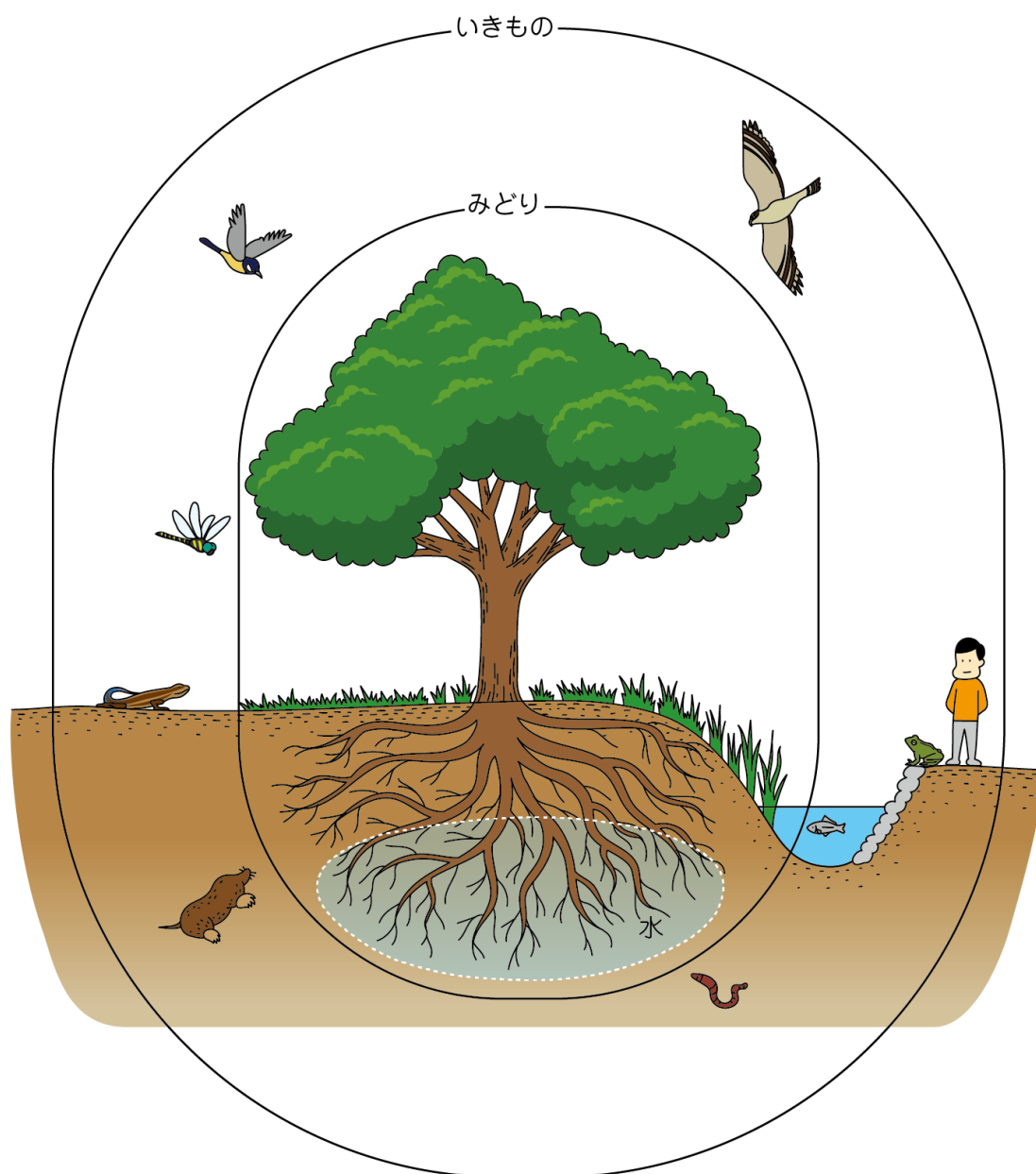
1	計画の位置づけ	.....
2	杉並区の概況	.....
3	緑被地等分布図	.....
4	公園等配置図	.....
5	都市熱分布図	.....
6	みどりの現状を表す指標	.....
7	杉並区のみどりの変遷	.....
8	みどり施策の年表	.....
9	これまでの区取組・実績と課題	.....
10	緑化関連費用の推移	.....
11	計画の検討体制	.....
12	計画改定の経緯	.....
13	検討委員会名簿	.....
14	幹事会・部会名簿	.....
15	検討委員会設置要綱	.....

# 序章

はじめに

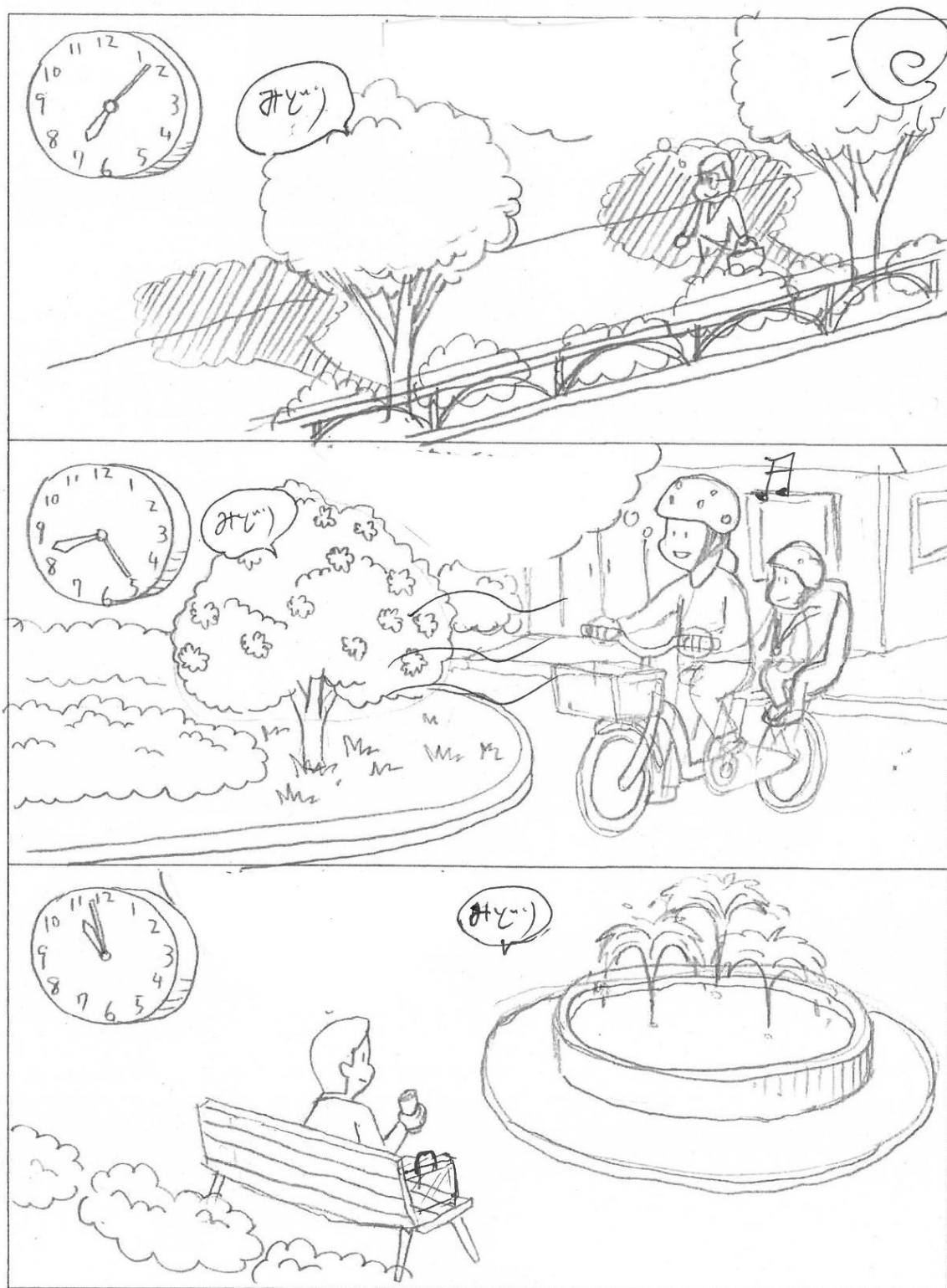
# 1 みどりの定義

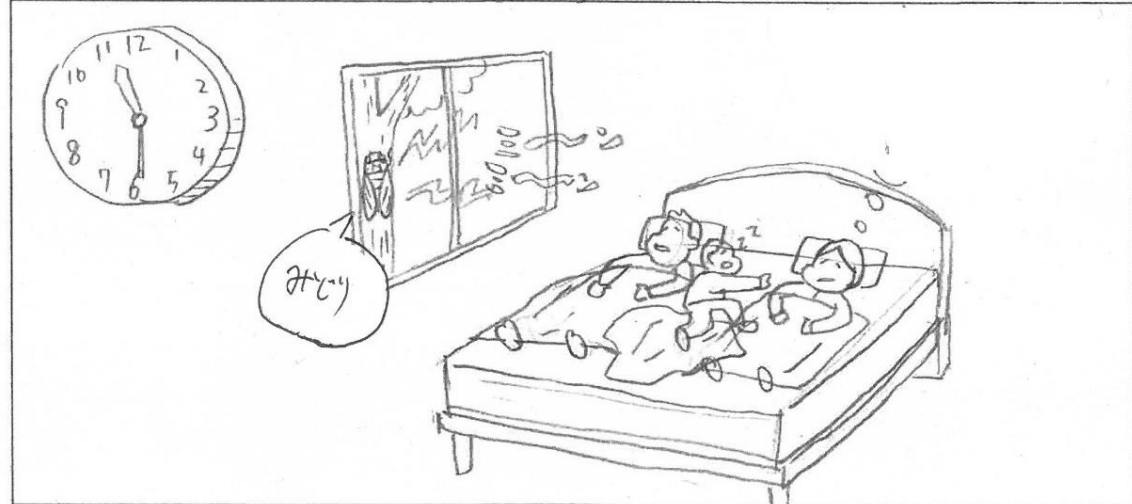
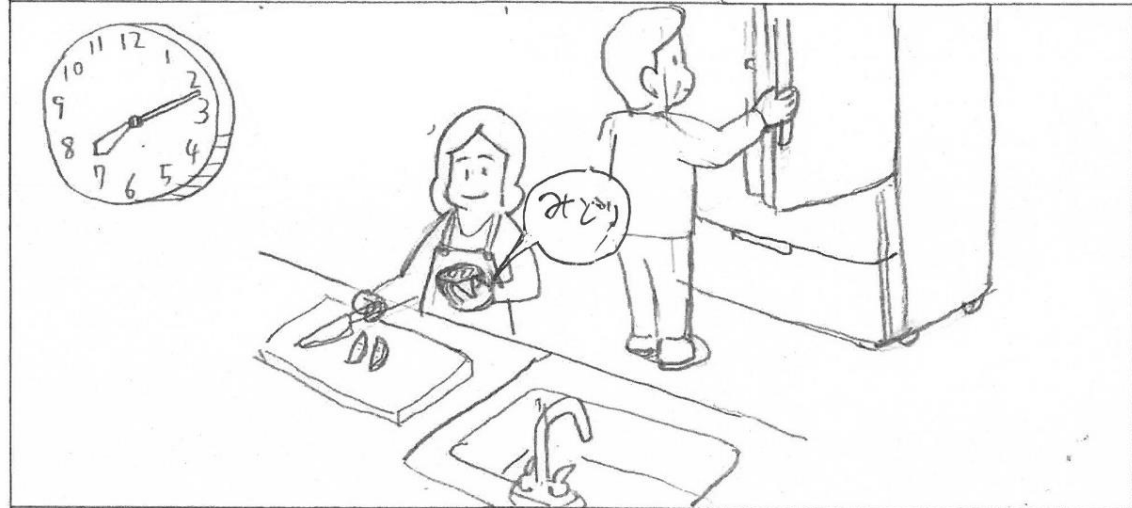
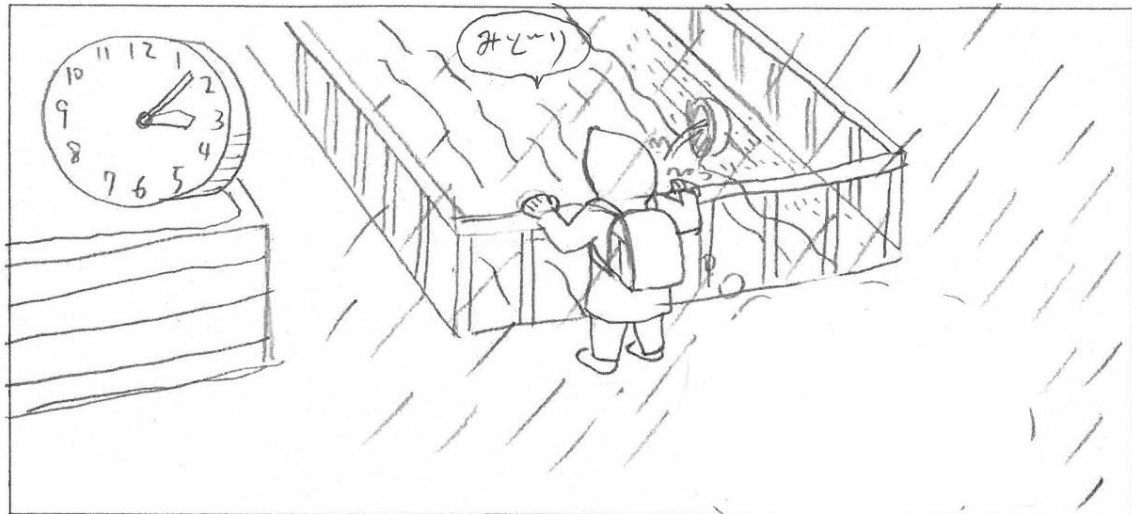
杉並区みどりの条例では植物に限らず、植物が育つための土地や水などの自然環境もみどりと定義しています。



## 2 自分には関係ない? ~こんな場面ありませんか~

みどりは自分には関係ないことでしょうか。私たちの生活の中で知らず知らずのうちに触れ合っているみどりについて見てみましょう。







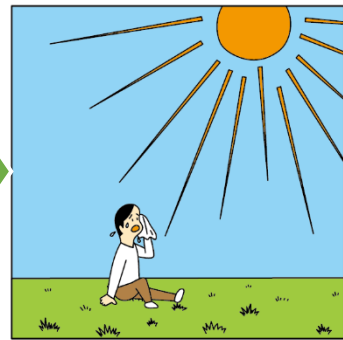
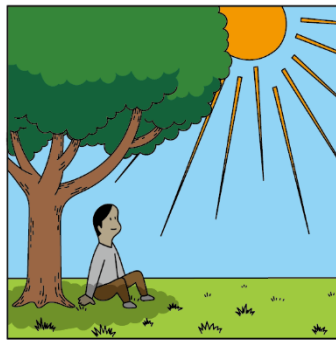
## 2 みどりは必要？ ～みどりの価値とは～

みどりは私たちが思っている以上に様々な役割があります。みどりの価値の一例を見ながら、私たちの生活にみどりが必要かどうか考えてみましょう。

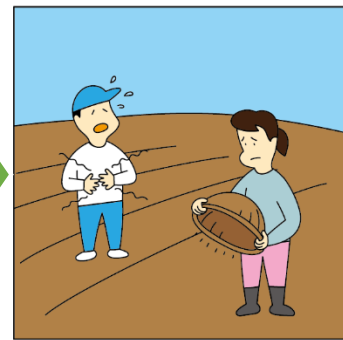
見えていて  
気持ちがいい



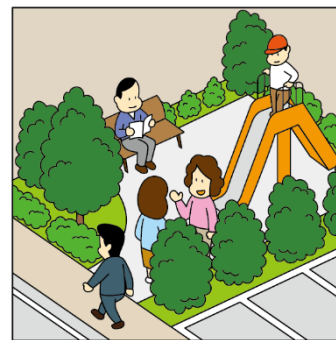
木陰が涼しい



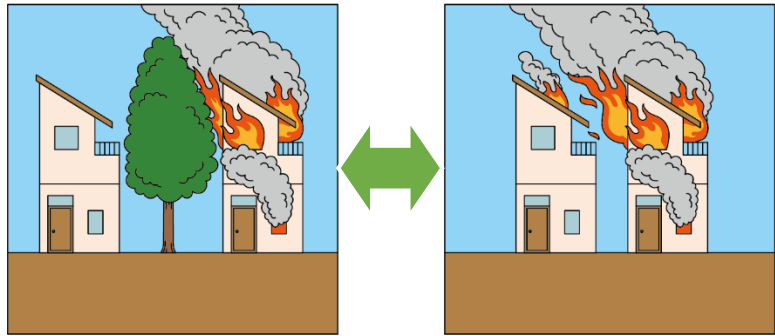
食べ物になる



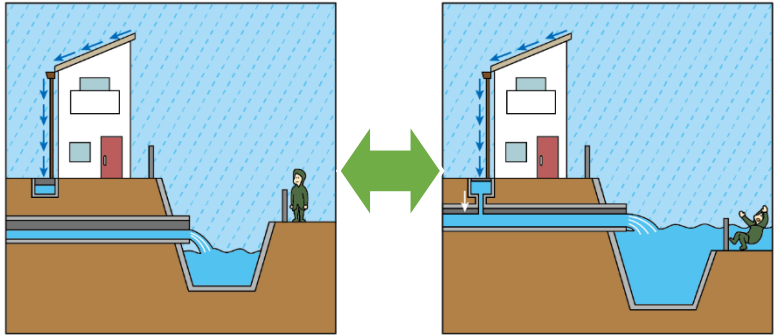
コミュニケーション  
の場になる



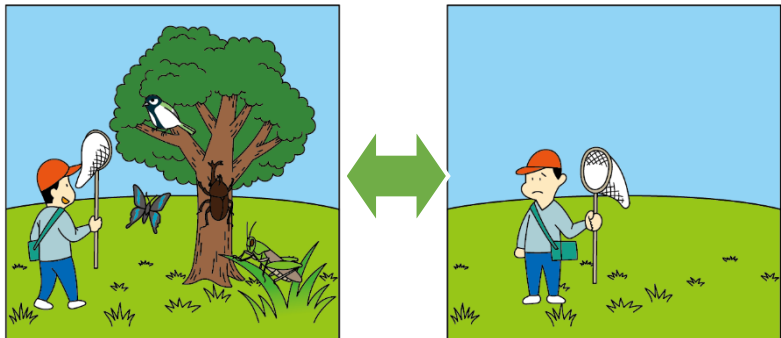
火事を止める



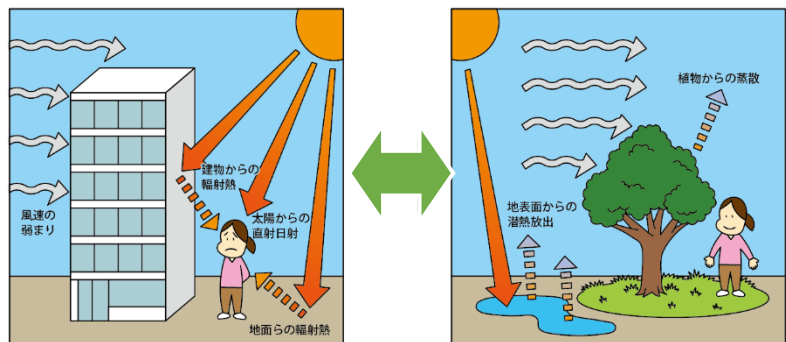
洪水のリスクを減らす



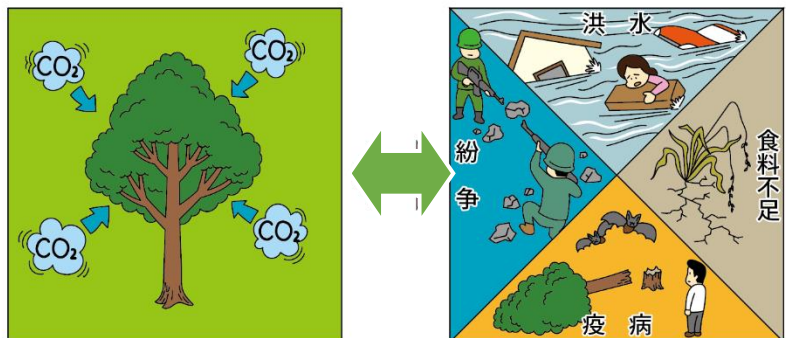
生き物を育てる



都市を冷やす



地球温暖化を遅らせる



# 第1章

## 計画の基本的な考え方

# 1 背景

## 杉並区のみどりの今昔

杉並区は大正中期まで田畑が広がる農村でした。戦後急速に人口が増え、小川は暗渠となり、田畑は宅地となりみどりは減少していきました。

航空写真（杉並区）永福四丁目付近



昭和 14 (1939) 年頃



令和 4 (2022) 年

萩窪一丁目善福寺川西田端橋付近



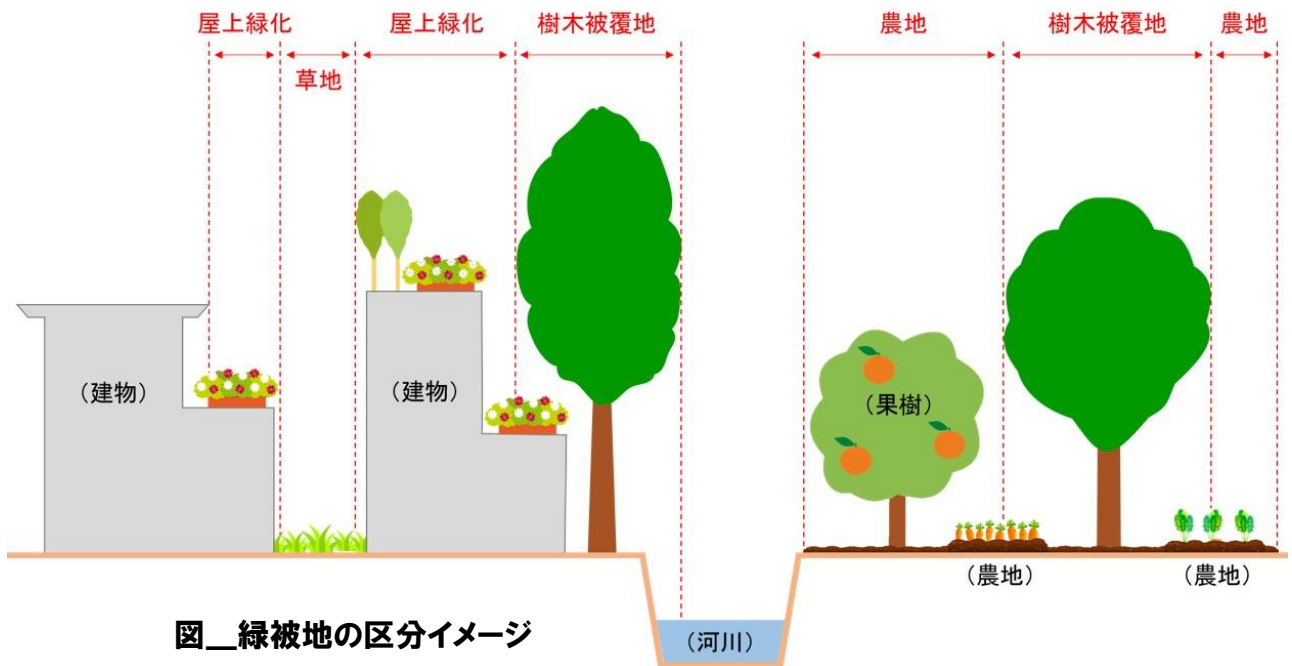
昭和 29 (2017) 年



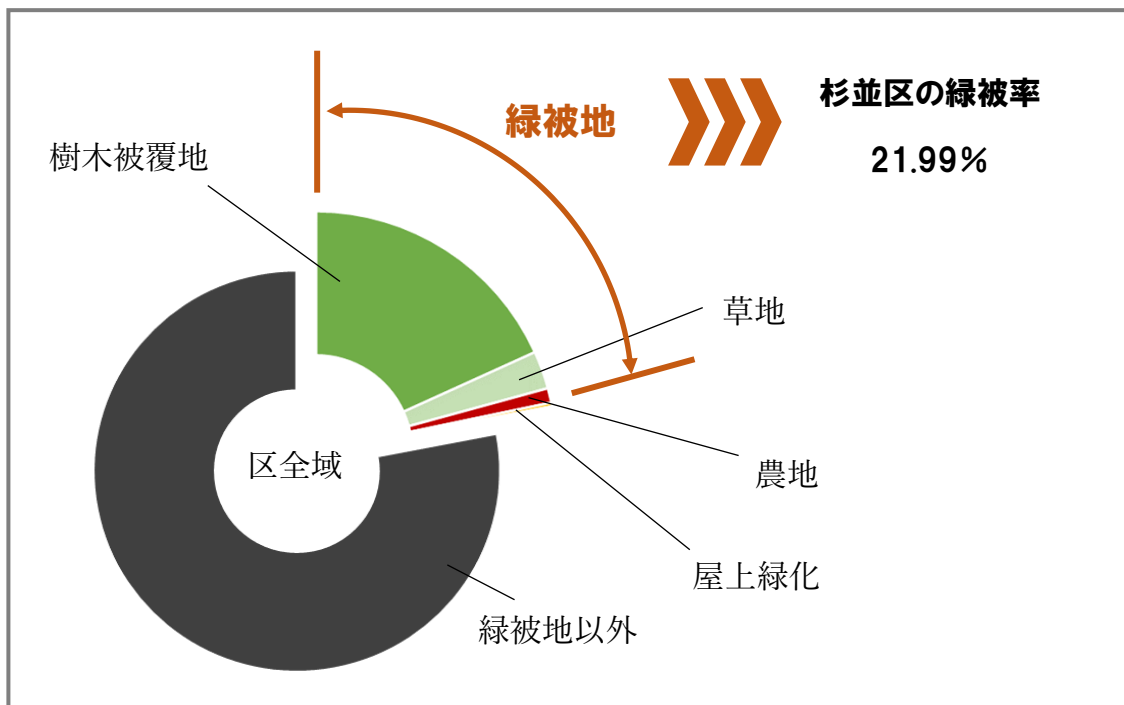
令和 6 (2024) 年

## 杉並区のみどりの現状

みどりの量を測る指標はいくつかありますが、他自治体でも活用されもっとも一般的な調査項目に緑被率があります。緑被率は下図のような緑被地が区内全域に占める緑被地の面積で計算されます。



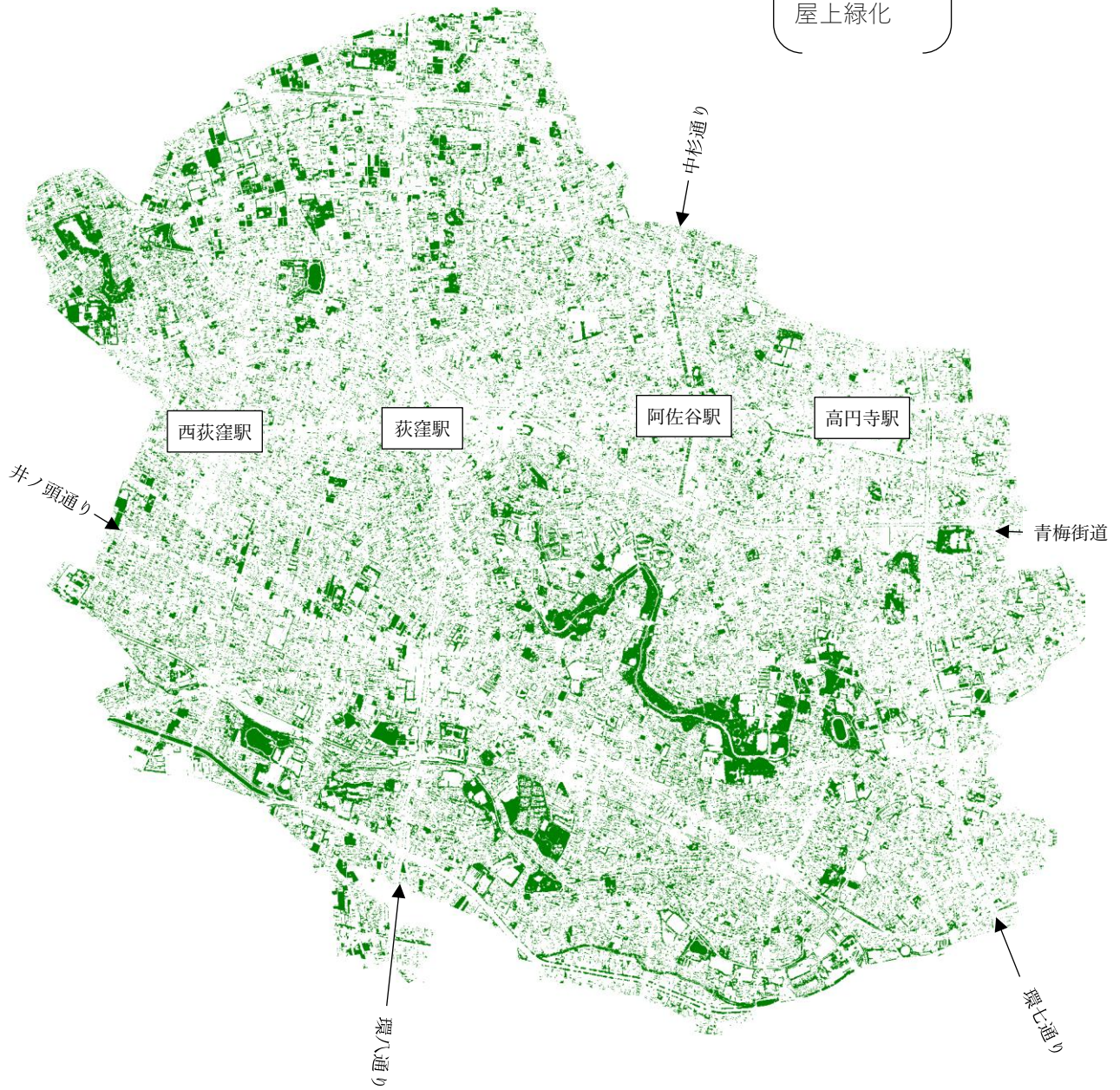
図\_緑被地の区分イメージ



図\_緑被地の構成比

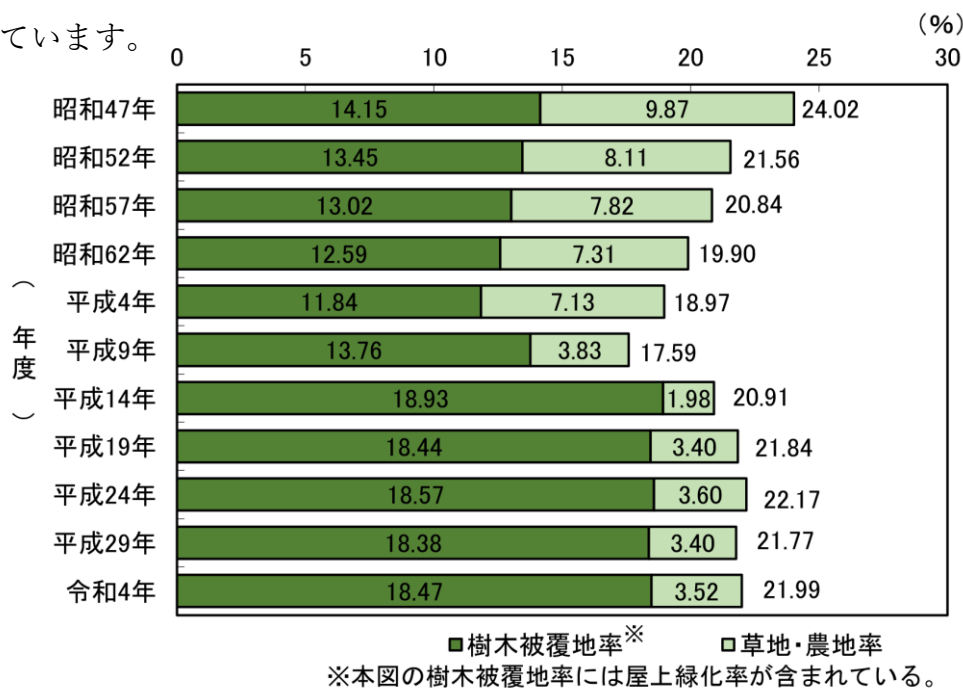
■ 緑被地

樹木被覆地  
草地  
農地  
屋上緑化



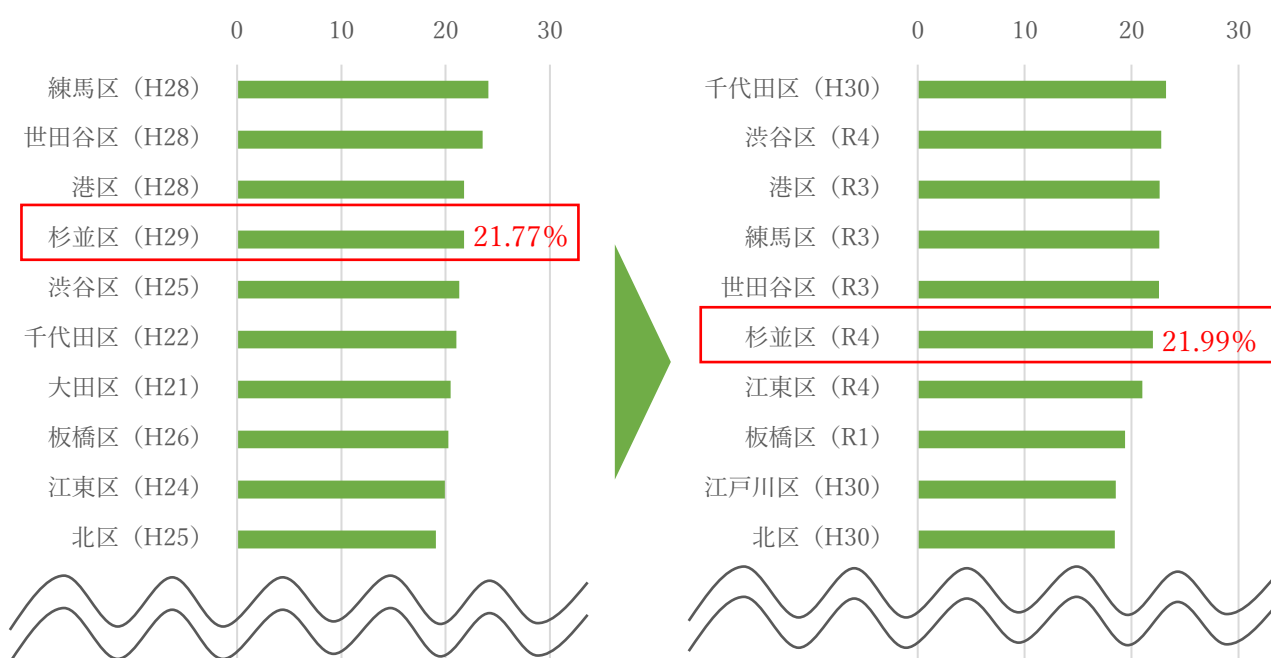
図\_杉並区全域の緑被地分布図

昭和 47（1972）年に 24.02%だった杉並区の緑被率は、平成 9（1997）年までは年々減少していましたが、平成 14（2002）年から令和 4（2022）年までは 20%後半から 21%前半を推移しています。



図\_緑被率の推移

緑被率は他自治体の多くで実態を調査しています。杉並区の緑被率は平成 29 年度から増加しましたが、東京 23 区で見ると、千代田区や渋谷区の躍進によって緑被率順位は 4 位から 6 位に低下しました。



図\_東京 23 区の緑被率ランキング推移

緑被率以外にも、杉並区ではおおむね5年に一度実施している「杉並区みどりの実態調査」の中で様々な項目を調査し、みどりの現状を把握しています。

	平成 29 年		令和 4 年	説明
緑被率	21.77%	増 	21.99%	樹木、草地、農地、屋上緑化で被われた緑被地が区域面積に占める割合
樹木	742 本	減 	666 本	幹の直径が 90 cm以上の樹木本数
樹林	147.24ha	減 	128.34ha	高木が 30 本以上で構成される 300 m <sup>2</sup> 以上の樹木群の面積
屋上緑化	76,640 m <sup>2</sup>	増 	86,295 m <sup>2</sup>	建築物の屋上等に植栽されている屋上緑化面積
接道部緑化率	24.61%	減 	22.68%	道路に接する敷地部分（接道部）に占める生垣・植込み等の割合
緑視率	21.30%	減 	20.09%	人の視野に近い範囲で撮影した写真に占める植物の割合

平成 29 年度と令和 5 年度を比較すると、緑被率や屋上緑化は増加していますが、樹木本数や樹林面積などは減少していることから、区内のみどりが増えているとは言えません。

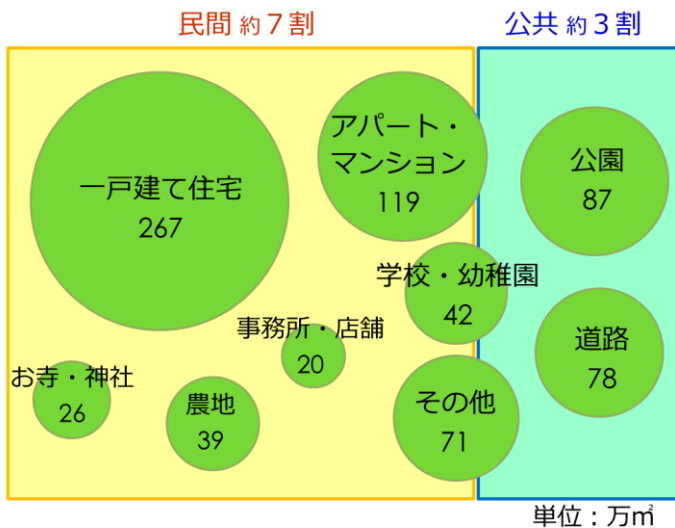


## 杉並区の特徴から見た緑被地の状況

杉並区は鉄道駅周辺や幹線道路沿いには商業施設や集合住宅が集まる一方、区内の大部分を戸建住宅が占め、低層住宅地という杉並区の特徴をつくっています。



図\_\_建物用途別現況図



土地利用別に緑被地がどこにあるか見ると、民間の土地が約7割を占め、戸建住宅がもっとも大きな割合を占めています。公共の緑被地を増やすとともに、民間のみどりを守り増やす取組が重要なことがわかります。

図\_\_建物用途別の緑被地

## 杉並らしいみどり

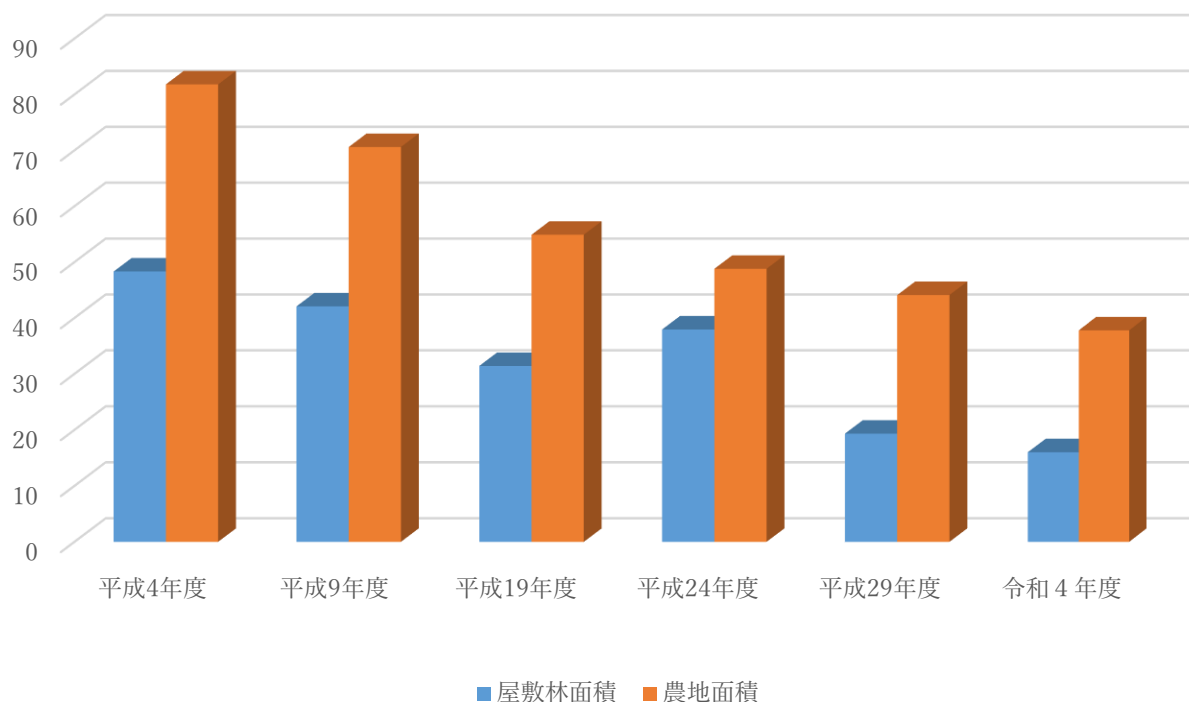
区で実施したアンケート調査などをもとに、多くの区民は杉並らしい景観として、「大きな樹木の多い武蔵野の原風景」を思い浮かべます。今も残る屋敷林や農地はこうした景観を形づくっています。



防災井戸利用のイラスト

そのほか、生き物の生息場所や、災害時には農業用井戸は被災者への生活用水として利用されることもあり、様々な面で屋敷林と農地が重要だということがわかります。

しかし、この30年間で屋敷林、農地は減り続けています。



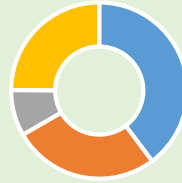
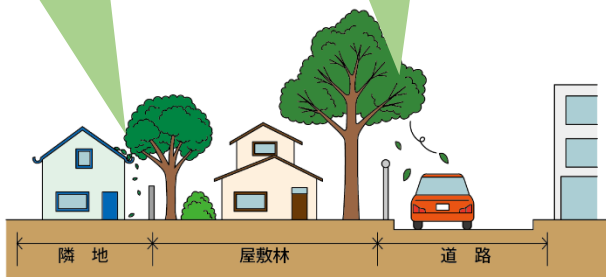
図\_屋敷林と農地の面積推移

なぜ、屋敷林や農地はなくなってしまうのでしょうか。

## 都市の中にある弊害

- ・隣地への枝の越境
- ・落ち葉が雨どいを詰まらせる
- ・日当たり

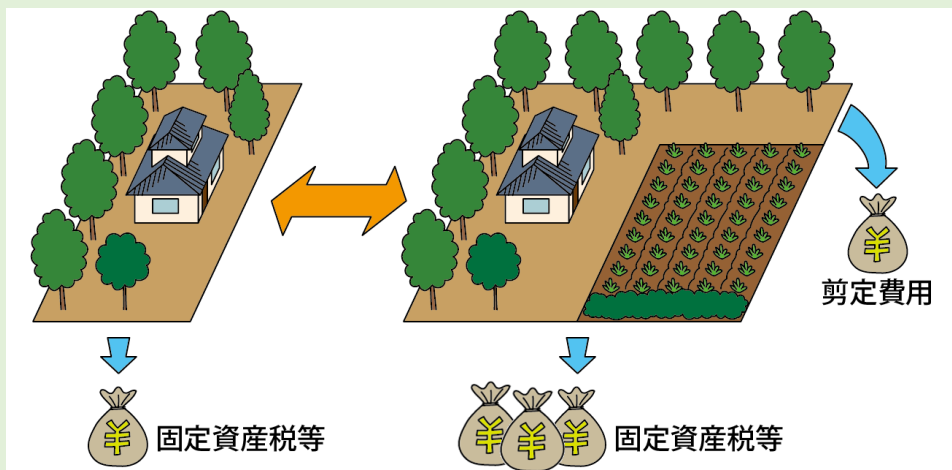
- ・道路への枝の越境
- ・落ち葉掃き



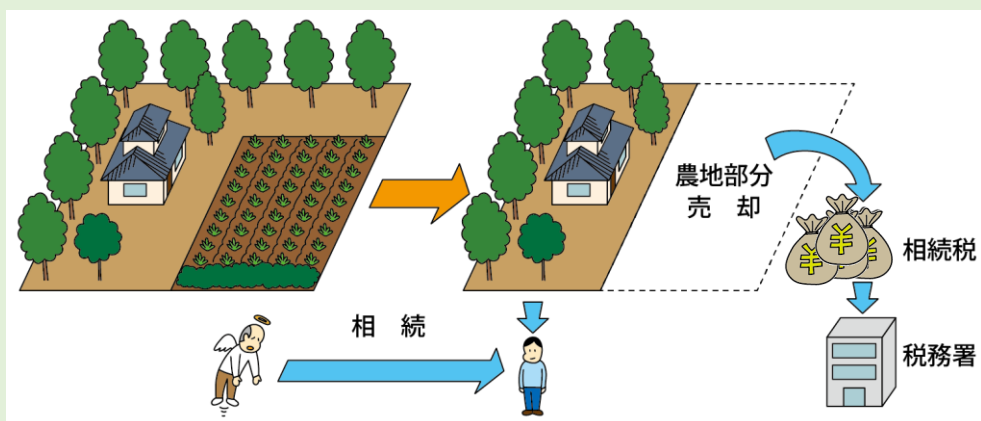
区に寄せられる屋敷林(保護樹木等)に関する要望内訳

- 枝が敷地外に出ているので何とかしてほしい
- 落ち葉が迷惑だ
- 枝が落ちそう、倒木しそうで危ない
- その他

## お金がかかる



## 相続の苦勞



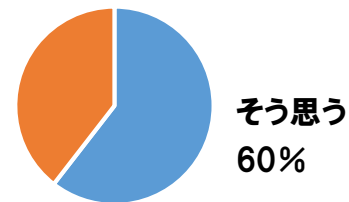
※農地については、そのほか営農を続けられるかも農地継続の条件となります。

## みどりでつながるまち

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に、私たちの生活におけるみどりの価値も見直されてきました。

リモートワークが増えたことで運動不足の解消から自宅周辺でウォーキング等を楽しむことが多くなり、目に留まるみどりに自然と関心が向かうようになりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、以前に比べて身近な屋外空間として公園や緑地の重要性を感じるようになりましたか。



都政モニターアンケート調査結果を編集  
(n=484)

ウォーカブルなまちのイラスト

目的地と自宅の往来から、歩いて楽しむウォーカブルなまちへ

ウォーカブルなまちのイラスト

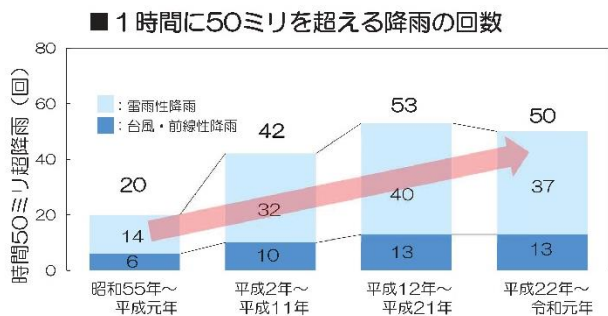
みどりがつながるまちは、魅力的で歩きたくなります。そのほか、みどりがつながることによって生き物が住みよく、防災にも寄与します。

## グリーンインフラの考えを活かした安全安心なまち

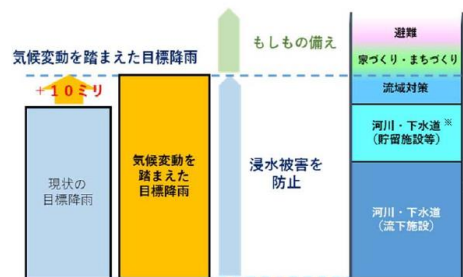
杉並区や国内では毎年のように自然災害が頻発しています。

杉並区		国内	
イラスト H5年 台風11号による水害 浸水524棟		イラスト H7年 阪神・淡路大震災	
		イラスト H16年 新潟県中越地震	
イラスト H11年 集中豪雨による水害 浸水152棟		イラスト H23年 東日本大震災	
		イラスト H28年 熊本地震	
イラスト H17年 集中豪雨による水害 浸水1963棟		イラスト H30年 西日本豪雨	
災害写真		災害写真	
		イラスト R2年 熊本豪雨	
		イラスト R6年 能登半島地震	

杉並区では、近年激しさを増す水害に見舞われることが多く、河道や調節池などの人工構造物（グレーインフラ）と対比して、地中への雨水浸透を高めできるだけ河川に雨水を流入させないグリーンインフラの考えを活かした流域対策が注目されています。

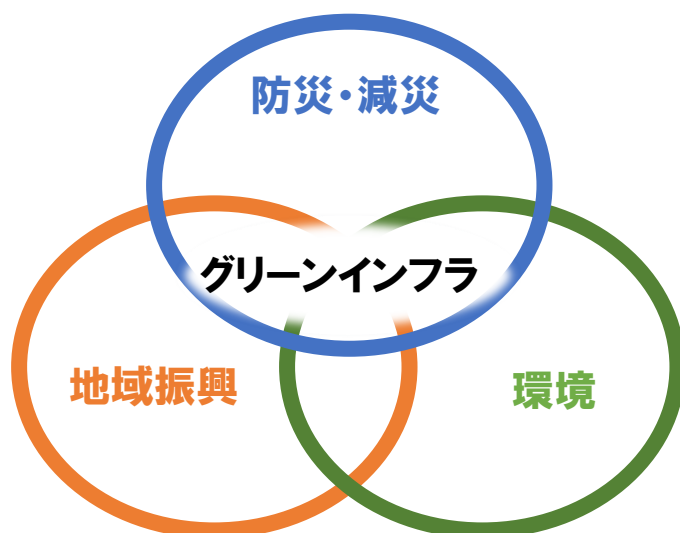


出典：東京都開催の説明会資料から抜粋



出典：東京都豪雨対策基本方針から抜粋

グリーンインフラは防災・減災、環境、地域振興など幅広い分野を横断して、自然環境が有する機能を活かした持続可能で魅力ある地域づくりで、みどりの基本計画を考える上で基盤となる考えです。環境面や地域振興とともに、自然を基盤とした治水対策で防災・減災に活用していくことができます。

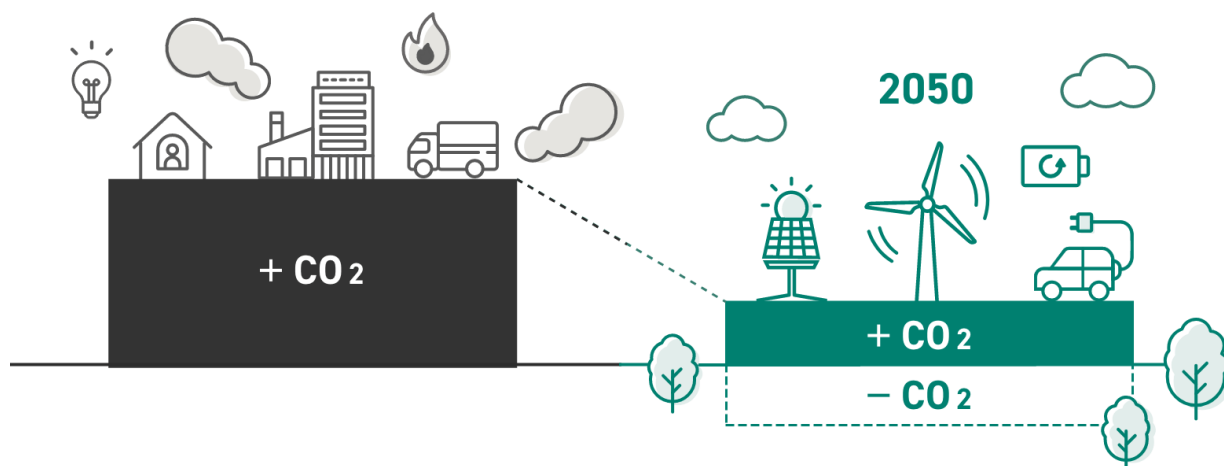


## 地球規模でのみどりを取り巻く環境

世界的に見てもみどりを取り巻く環境はこの間、大きく変化しています。地球温暖化の影響による干ばつや豪雨、台風の強大化などが、人々の生活を脅かしています。こうした事態はもはや「気候変動」ではなく「気候危機」と言える事態になっており、差し迫った対応が求められています。

写 真

区では令和 32（2050）年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティを目指しています。温室効果ガスの一つである二酸化炭素を樹木が吸収することから、ゼロカーボンシティ実現にみどりは必要不可欠です。



出典：環境省 脱炭素ポータル HP

## 2 改定の視点

①

### 直面する気候危機に立ち向かい、 多様な生き物が生息できる空間づくり

地球規模での気温上昇によって、極端な気象現象、農作地の減少、疫病の蔓延スピードの上昇などが引き起こされ、都市圏ではさらにヒートアイランド現象が拍車をかけ環境悪化を引き起こしています。

一刻の猶予も許されない中で「気候変動はもはや気候危機である」という国連の発信を受け、各国の取組が加速しつつあります。

気候危機が引き起こす環境悪化は生態系に重大な影響を及ぼし、生物多様性の損失につながります。気候危機と生物多様性の損失は、人類にとって密接につながる2つの脅威として認識されつつあります。不可分である気候危機と生物多様性の損失を同時に取り組むため、みどりが貢献できる取組を進めます。



## ②

### グリーンインフラを活用した持続可能で 安全安心なまちづくり

区では、これまでも国や都の様々な指針や都の被害想定などを踏まえ、防災・減災対策をハード、ソフト両面で進めてきました。しかし気候危機によって頻発する豪雨は想定を上回り、これまでの対策に加え自然環境を有するグリーンインフラの考えを活かした取組が求められています。

みどりは、平常時には区民の憩いやレクリエーションの場を提供する一方、将来想定される首都直下型地震ではオープンスペースや延焼遮断帯としても機能します。これらみどりが持つ多様な機能を活かしたグリーンインフラによって、持続可能で安全安心なまちを目指していきます。

### ③

## 杉並の原風景から見る “杉並らしい”みどりのあり方

杉並区では大正中期まで畑や水田が広がり屋敷林が点在していました。そういった光景は人々の中に今も残り、杉並の原風景となっています。

杉並の原風景となる屋敷林・農地を区民共通の資産として位置付け、後世に継承していくことは全区民の責務です。

あわせて、発展に伴って変化を続けるまちの中においては、原風景となる屋敷林、農地や社寺を残しつつも、ウォークブルにまちがみどりでつながるなど、低層住宅地である杉並ならではのみどりの形やあり方を考え、増やしていくことも必要です。

屋敷林と農地を中心とした杉並らしいみどりが地域固有の景観を形成し、杉並の魅力を自然に高めることにもつながります。

## ④

### みどりに関わる多様な立場を理解し、 「自分ごと」として考える

みどりを通じた交流はゆるやかに人々をつなげ、「Well-being（心身と社会的な健康を意味する概念）」をもたらすことがコロナ禍を経て再認識され、みどりの重要性はますます高まっています。

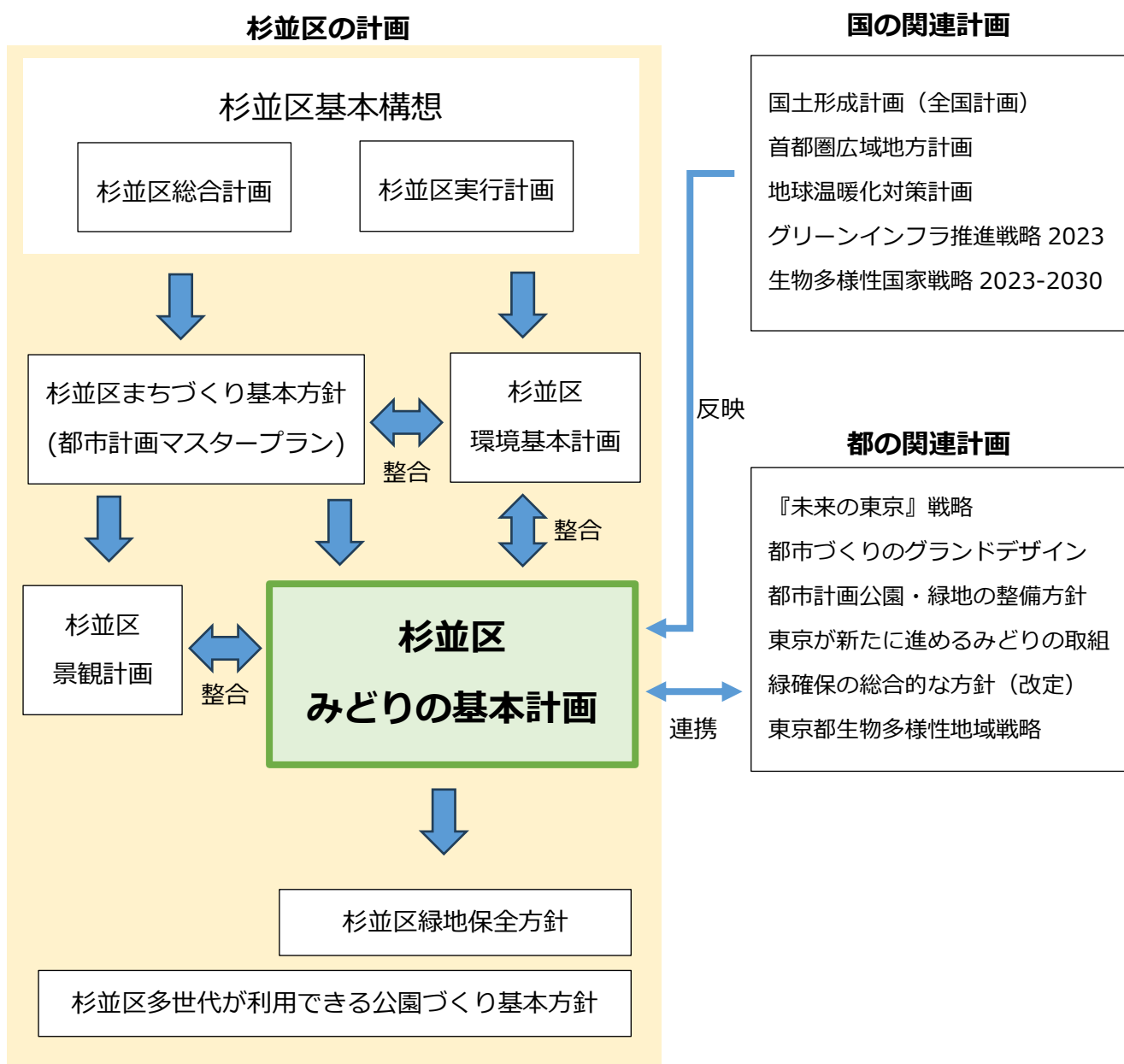
しかし生活様式の変化に合わせて区民の価値観やみどりへの関わり方も変化してきました。みどりが好きな人と関心のない人、見上げる樹木を所有する人と隣接に住む人、一方の立場から主張するだけではみどりを守り、増やすことはできません。多様な立場を理解し、共通解を見つける場や機会が重要となります。

一部の支えだけでは都市の中でみどりを維持するのは難しいです。一人一人がみどりについて関心を持ちつながる、「自分ごと」として考えることが必要不可欠となります

### 3 みどりの基本計画とは

#### 杉並区みどりの基本計画の位置づけ

みどりの基本計画は、「都市緑地法」と「杉並区みどりの条例」によって、区がつくる緑地の保全及び緑化の推進に関する緑の総合計画です。

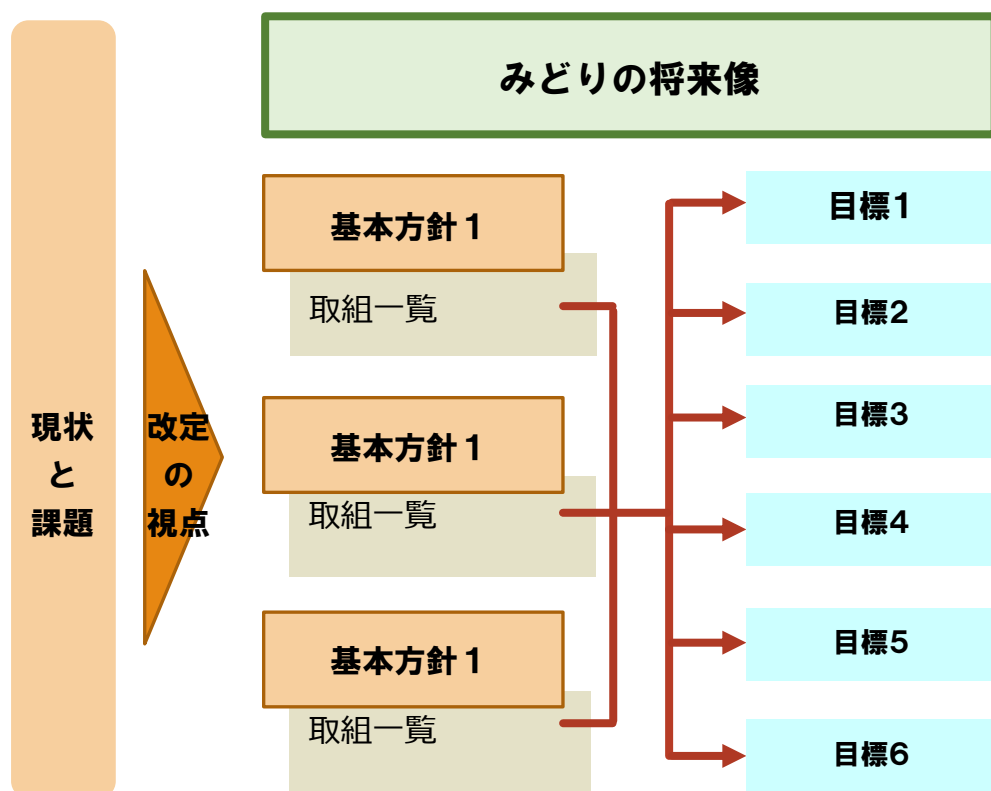


※ 杉並区みどりのベルトづくり計画、杉並区みどりのリサイクル計画は、本計画に包含され、今後は本計画によって取組を進めます。

## 4 対象区域

本計画は、杉並区全域（3,406ha）が対象区域です。あわせて、杉並区は全域が緑化重点地区です。

## 5 計画の構成



# 第2章

## みどりの将来像と基本方針

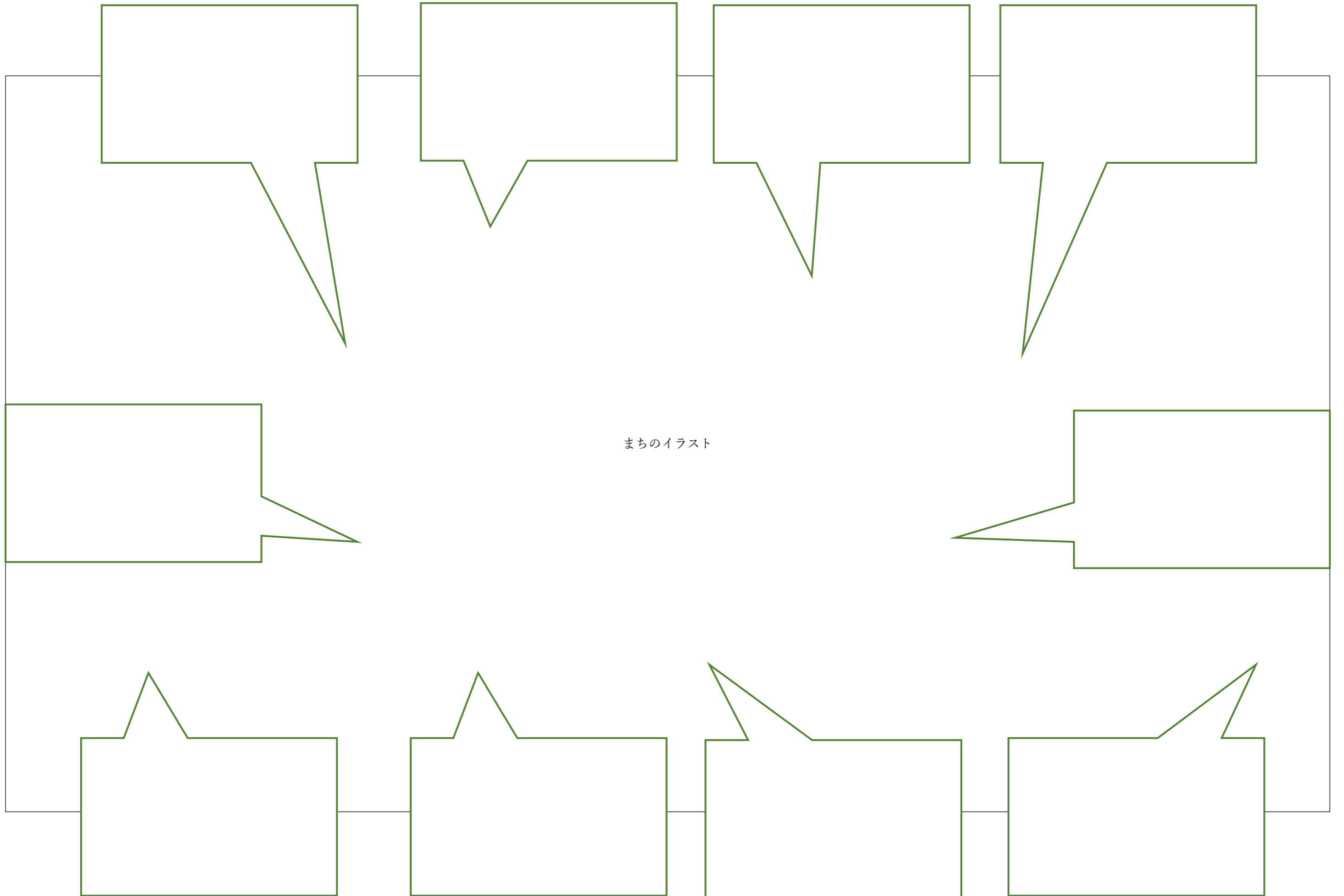
## 1 みどりの将来像

私たちが豊かに安全安心に暮らしていくために、今まで以上にみどりが果たす役割は大きくなりつつあります。しかし、今までの延長線上ではみどりを守り増やすことに限界が見えてきました。これからは、みんなが「自分ごと」として考え行動することが、この状況を変える鍵となります。区民・事業者・行政あらゆる主体が草の根レベルでみどりを持ち寄ってつなげるまち、このような姿を杉並区は目指すみどりの将来像と考えます。

みどりの将来像

**区民が変える みどりがつながるまち 杉並**



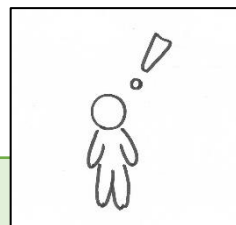




## 2 基本方針

みどりの将来像を実現するため、3つの基本方針に基づき取組を進めていきます。

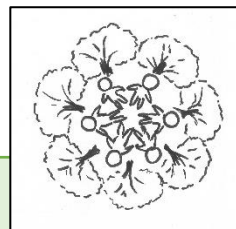
### 基本方針 1



#### みどりがあつたり前を 変えよう

屋敷林、農地をはじめとしたみどりは区民共通の財産です。しかし、一部の人が負担し続けるみどりのままでは将来にみどりを引き継ぐことはできません。みどりによって享受を受けるにとどまらず、みんなが自分ごととして考え、行動することが大切です。みどりがあつてあたり前という考えや状況を変え、みんなでみどりを支えていかなければなりません。

### 基本方針 2



#### みどりでつながるまちに 変えよう

みどりがどこまでも続くまちは、出掛けたくなる、歩きたくなるウォーカブルなまちと言えます。みどりがつながることは、まちの良好な景観形成とともに、生き物にとつても住みやすい環境をつくることができ、防災機能も向上するなど、点在するみどりよりもみどりの質を高めまふ。戸建住宅が多くを占める杉並区では個人個人が草の根レベルでみどりを持ち寄つてつなげることで、みどりでつながるまちに変えることができます。

### 基本方針 3



#### みどりのある未来にいま 変えよう

気候危機を前に様々な場面で私たちの生活が脅かされています。グリーンインフラの考えを活かした防災・減災や、二酸化炭素吸収による地球温暖化緩和など、みどりはこういった状況を打開する糸口となります。豊かに安全安心に今後も暮らしていけるよう、みどりのある未来にいま、私たちは変えていかなければなりません。